

令和5年度 第1回草津市地域包括支援センター運営協議会 議事概要

■ 日 時： 令和5年7月14日（金） 14時00分～15時30分

■ 場 所： 草津市役所 8階大会議室

■ 出席委員： 15名

高松会長、平野副会長、黄瀬委員、松浦委員、高島委員、谷口委員、宮川委員、藤原委員、
谷委員、則武委員、寺嶋委員、木村委員、河辺委員、中西委員、山本委員

■ 事務局：

健康福祉部：安藤副部長

長寿いきがい課：松本課長、力石課長補佐、河原田副係長、吉田保健師

地域包括支援センター：井上リーダー（高穂）、西村リーダー（草津）、宮村リーダー（老上）
嶋村リーダー（玉川）、大塚リーダー（松原）、福山リーダー（新堂）

■ 傍聴者： なし

1. 開会および挨拶

<草津市附属機関運営規則に基づき、本協議会が成立していることを報告>

<健康福祉部副部長から挨拶>

2. 委員・事務局紹介

<事務局から紹介>

3. 副会長の選出

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員の互選により平野委員を副会長に選出>

4. 議事

【報告】 草津市地域包括支援センターの運営について

＜資料2（P1～5）、資料3-1、資料3-2に基づき説明＞

【委員】事業対象者が受けられるサービスはあるのか。

【事務局】介護予防・生活支援サービス事業を受けることができる。自立した生活を送るため、日常生活の手助けをする訪問型サービスや、通所介護事業所等で食事・運動等のサービスを受ける通所型サービスなどがある。

【会長】他にも市や地域で行われている介護予防教室を活用してもらう方法もある。

【承認】 指定介護予防支援および介護予防ケアマネジメント業務の一部委託について

＜資料2（P6～7）に基づき説明＞

委員から質疑や意見なく、承認。

【報告】 各地域包括支援センターの取組状況について

＜資料2（P8～14）に基づき、各地域包括支援センターから説明＞

【委員】元々地域のサロンに参加されていた高齢者がコロナで参加しなくなり、その後コロナが落ち着いても、サロンに戻れていないような状況もあると思うが、再びつながりをつくるために、草津包括の他にも活動されているのであれば、教えてほしい。

【高穂包括】ケアマネジャー交流会で、再開したサロンの紹介といった情報発信を実施している。

【会長】ケアマネジャー伝いでそれぞれの高齢者さんへ情報を届けられるよう、つながりをつくっていくことはとても重要。ケアマネジャーとの事例検討等を通じて、ケアマネジャーとの関係づくりを続けていけると良い。

【副会長】地域包括支援センターは高齢者の生活の一つの核になっていると感じている。医療との連携や、社会資源を有効に活用していくことが重要である。また、医療と介護、福祉との連携を目指し、病院や医師会からの出前講座のように地域との取組が非常に重要であるため、医師会と連携したい取組等があれば、またご意見がほしい。

【委員】当学区では、神社の会館で地域の方が集えるカフェを大学生と一緒にやっている。子ども連れや高齢者の方も来られていて、体操をしたり、医師を講師に招いて講座をしたりしている。そういった取組が他のところでも広がるといいなと思っている。

- 【委員】地域のサロンに参加させてもらう機会があって、地域包括支援センターは知っているけれど、いざ相談するとなるとハードルが高いし、サロンに来てもらっても話が難しいと仰っておられた。地域包括支援センターが相談しやすくなるような工夫が必要ではないかと感じた。
- 【会長】市民にとって、地域包括支援センターは相談しやすい場所だと感じてもらえるよう、上手く地域で広がっていくと良い。
- 【委員】のびっこでの認知症サポーター養成講座など、若い世代への啓発や地域包括支援センターのPRを行われているが、市内に立命館大学があるので、大学生をもっと巻き込んでいいのではないかと思います。大学生とすでに取り組を始めている事例があれば教えてほしい。
- 【会長】龍谷大学の学生が実習を通じて地域サロンに参加させていただいたことがあるが、参加してみたい学生は多く、参加した学生はすごく楽しかったという感想を持っていて、地域の方も若い人と交流できて良かったと聞いているので、こういった取組を大学では続けていきたいと思う。
- 【老上包括】学区内に認知症カフェがあるが、そこに立命館大学の落語研究会が来られるという話を聞いた。地域包括支援センターが特別に何かしなくても、つながりが広がっていると感じた。また、そういうつながりの中から認知症への理解も深まると感じた。
- 【事務局】昨年度、地域課題を検討する会議に学生にも参加してもらった。地域の課題についての気づきや、課題を解決するために、学生として何ができるかを考える良い機会となったと聞いている。
- 【委員】当事業所では、地域の方の居場所を作ろうと話していて、実際色々なところに出向き、話を聞いている過程で、そもそも地域の課題って何だろうと話す場そのものが居場所だと気づくことがあった。新たなものをつくるというよりは、今あるものの中で居場所という機能が果たせている。実際に介護事業所が地域に今後何を提供できるかと考えた時に、きっかけづくりではないかと思っていて、学生さんと事業所が地域のサロンに参加することも、何かをサロンに提供するというよりは、つなぎ役となることで、結果的に各々のニーズが合致して、地域として豊かになるのではと思っている。
- 【委員】資料2の4ページ、地域包括支援センターの人員体制について、民生委員として活動をしている中で、地域包括支援センターは大変忙しいという印象を受けており、人員が足りていないのではと感じている。
- 【会長】地域包括支援センターの利用者は増えていくのに、職員は増えていない。難しい内容かと思うが、事務局どうですか。
- 【事務局】地域包括支援センターの運営に関しては、介護保険料や国・県の交付金を財源として、市から各法人に委託している。交付金にも上限があり、限られた財源の中で地域包括支

援センターを運営していく必要があり、これまでに、高齢者人口に応じて3職種を増員したり、3職種の他に、プランナーや事務職員を配置してきたところである。今後も国の方向性を踏まえ、地域包括支援センターと連携して業務の効率化などの取組を進めていきたいと考えている。

5. その他

<次回の開催予定を説明>

閉会

以上